

本 会 会 報

学会だより

◇ 会員の榮譽

経塚淳子会員が「みどりの学術賞」を受賞

本会会員の経塚淳子氏（東北大学大学院生命科学研究科）は「植物の分枝制御機構とその進化的成立過程の解明」に関する功績により、令和7年（第19回）「みどりの学術賞」を授与されました。

「みどりの学術賞」は、国内において植物、森林、緑地、造園、自然保護等に係る研究、技術の開発その他の「みどり」に関する学術上の顕著な功績のあった個人に内閣総理大臣から授与されます。授賞式は、4月25日にパレスホテル東京で行われました。

◇ 令和7年度第1回運営委員会議事録

日時：2025年2月9日（日）13:00～18:30

場所：名古屋駅 JR ゲートタワー 16階 JR ゲートタワーカンファレンス会議室 C8, 9会議室およびオンラインでの開催

出席者（現地）：中園幹生、福岡浩之、岩田洋佳、高橋宏和、津田麻衣、南川舞、山本敏央、堀清純、掛田克行、石川亮、小出陽平、山内卓樹【12名】

出席者（オンライン）：津釜大侑、阿部陽、山田哲也、那須田周平、山形悦透、白澤健太、加藤浩、磯部祥子【8名】

欠席者：渡邊和男、半田裕一、古川一実【3名】

各運営委員からの活動経過報告の後、以下の事項について審議された。

- ①育種学会旅費規定の改訂、地域活動費の増額、オンライン会員システムの公開（総務）
- ②育種学会トップページのメニュー画像の変更（IT・HP）
- ③2025年度予算案（会計）
- ④新編集委員（1名）の推薦、著作権のAI利用管理の（編集）
- ⑤大会運営費の余剰金の返還と運用方法（集会）
- ⑥育種学会創立75周年記念シンポジウム（シンポジウム委員会）
- ⑦記者発表関連スケジュール（記者発表）

◇ 第19回代議員会議事録

日時：2025年3月15日（土）13時00分～16時10分

場所：オンライン開催

（令和6・7年度 理事・運営委員・監事・各種委員）

出席者：中園幹生、福岡浩之、岩田洋佳*、高橋宏和、津田麻衣、津釜大侑、半田裕一、南川舞、山田哲也、阿部陽*、古川一実*、山本敏央*、山形悦透*、磯部祥子、石川亮*、堀清純*、白澤健太、掛田克行、加藤浩、小出陽平、山内卓樹、奥本裕、川浦香奈子【23名】

欠席者：那須田周平*、渡邊和男【2名】

（令和6・7年度 代議員）

出席者：久保友彦、山田哲也、小出陽平、加藤清明、阿部陽*、笹沼恒男、深井英吾、田中克典、堀清純*、加賀秋人、吉岡洋輔、江面浩、久保山勉、平野久、大西孝幸、岩田洋佳*、井澤毅、犬飼義明、古川一実*、佐藤豊、富田因則、石川亮*、築山拓司、山本敏央*、門田有希、杉田左江子、山形悦透*、一谷勝之、谷中美貴子、渡邊啓史【30名】

委任状：高橋秀和、溝淵律子、石井卓朗、井川智子、有村慎一、伊藤純一、堤伸浩、村井耕二、佐塚隆志、那須田周平、横井修司【11名】

（*役員・委員と代議員を兼任）

議長：代表理事（中園幹生）

議事録：総務担当運営委員（津田麻衣）

出席者数は代議員会の定足数を満たしていた。

1. 報告事項

（ア）令和7年度学会賞等選考委員候補者意向投票結果

（イ）運営委員会報告（各運営委員）

総務：会員数、冊子発行部数、Webサイト更新・メールニュース配信、オンライン会員情報管理システム、シニア会費制度利用申請、事業監査報告、契約、共催・協賛・後援、受賞者紹介、石原（志方）守一奨学金受賞者、会開催予定

IT・HP：Webサイトのアクセス解析、固定ページの更新

科研費：研究成果公開促進費（研究成果公开发表：シンポ科研、国際情報発信強化：BS科研）

会計：2024年度決算報告、クレジットカード支払い開始、会計監査

編集（英文誌）：編集状況（受付状況、採択状況、J-Stage・PubMedアクセス数）、特集号・企画総説の進捗状況、SNSによる情報発信、BSの宣伝活動の強化
編集（和文誌）：編集状況（原稿受付・取扱状況、発行状況、J-Stageアクセス数）、冊子体の印刷方法、プレスリリースの取り扱い

集会：2025年春季大会、今後の大会開催予定、2025年春季大会の詳細、アカデミック展示について、大会参加費の取扱いについて、全大会・試写室に関するアンケート結果、他学会の開催予定

農学会：2025年度日本農学大会、日本農学会シンポジ

ウム、2024 年度日本農学会シンポジウム講演要旨の公開、科研費増額要望書について

記者発表：第 147 回講演会 記者発表開催予定日時・方法、記者発表対象課題、記者発表希望演題数

LMO・ABS：ABS に関する動画、国際法運用のモニター地域（北海道、東北、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄）：談話会の開催および開催予定

（ウ）令和 6 年度事業報告

（エ）令和 6 年度事業・会計監査結果の報告

2. 審議事項

（ア）通常決議議案：令和 7 年度学会賞等選考委員について

代議員による意向投票で下記の委員候補者および補充委員候補者が選出され、審議の結果、承認された。

委員候補者：加賀秋人、井澤毅、佐藤豊（遺伝研）、江面浩、山本敏央、堤伸浩

補充委員候補者：岩田洋佳、久保友彦、久保山勉、犬飼義明、有村慎一

（イ）通常決議議案：育種学会旅費規定の改訂について

運営委員会に関わる旅費のうち宿泊費について、上限 1 泊 12,000 円であったが、事情に応じてかかった宿泊費が妥当であることを示す書類等を提出することで上限を超えて支給できるように改訂することが提案され、審議の結果、承認された。

（ウ）通常決議議案：地域活動費の増額について

地域活動費について、現在の 5 万円から 10 万円に増額することが提案され、審議の結果、承認された。

（エ）通常決議議案：2025 年度予算案について

審議事項（ウ）結果を受けて、2025 年度予算案について、地域活動費の増額、および男女共同参画推進委員会の名称の D&I 推進委員会への変更を行った修正案が提案され、審議の結果、承認された。

（オ）通常決議議案：新編集委員の推薦

新編集委員として Dr. Peakit Somta が推薦され、審議の結果、承認された。

委員候補者（5 名）：犬飼義明、山本敏央、辻寛之、内藤健、畠山勝徳（岩大）

（カ）通常決議議案：投稿規定の改訂

投稿規程に「遺伝資源の入手時の確認」と「研究倫理と遵守（著者の貢献）」の改訂依頼・案が LMO・ABS 委員会より提案され、審議の結果、承認された。

（キ）通常決議議案：著作権の AI 利用管理

国内の著作権管理をしている公的機関である学術著作権協会に AI 利用の許諾を委託することについて提案があり、審議の結果、承認された。

（ク）その他：無し

3. その他

（ア）関連報告

①学会賞等選考委員会（福岡）：学会賞等選考委員の補充委員を 5 名にした経緯について説明があった。

②シンポジウム委員会（山本）：昨年のシンポジウムの特集記事について、育種学研究に掲載される予定であることが報告された。また北海道大会のシンポジウムについて、辻本先生を中心に進めていることが報告された。ワークショップについても例年と同様の公募を行う予定で、基本的には対面開催を予定していることが報告された。

③ D&I 推進委員会（岩田）：第 146 回のランチタイムセミナーにおけるアンケートの結果、若い世代の参加者が多く、D&I を知ってもらおう周知として良い結果であったことが報告された。

④日本学術会議育種分化学会委員（磯部）：今後のウェビナー、シンポジウムの開催について企画中であることが報告され、開催の際には育種学会からのご協力の要請があった。また、日本学術会議の法人化に関する議論が行われていることが報告された。

⑤公益財団法人農学会農学教育推進委員会委員（富田）：高校生向けシンポジウムを企画していることが報告された。

（イ）その他

①総務

第 147 回講演会優秀発表賞の選考について投票依頼とオンライン投票方法について説明があった。

② Everidays について域活動における状況共有において大変便利に使用されており、利用のため登録者数に制限等の有無に関する質問があった。登録人数に上限はないこと、不便な点があれば情報共有してもらい利便性の向上に役立てたいと回答があった。

◇ 第 147 回講演会選定課題記者発表報告

発表日時：令和 7 年 3 月 13 日（木）13:00～14:30

発表場所：東京大学農学部キャンパス 1 号館 5 番講義室、オンライン（ハイブリッド形式）

出席者：岩田洋佳（幹事長）、津釜大侑（記者発表担当運営委員）、石井尊生（課題 1）、高畠令王奈（課題 2）、兒玉晋洋（課題 3）

参加報道機関：化学工業日報、科学新聞、時事通信、日本農業新聞、毎日新聞、読売新聞計 6 社・6 名

令和 7 年 3 月 20 日（木）、21 日（金）に東北大学で開催される日本育種学会第 147 回講演会の講演課題（計 199 課題）の中から運営委員会によって選定された以下の 3 題について、記者会見を実施した。

発表タイトル（記者発表）：

（1）戦火の前に収集されたイネ、半世紀の眠りから覚め母国へー日本人研究者が残した遺伝資源、今後の品種改

良での活用へ

- (2) 日本で開発された優良作物品種の育成者権を守る
- (3) 急速に進化する生成 AI を活用した点群構築について植物を用いて検証

講演タイトル (第 147 回講演会) :

- (1) 講演番号 413 「半世紀以上眠るイネ在来品種遺伝資源の凱旋復活に向けて」 石井尊生¹, Sathya Lim¹, Chhourn Orn², 石川亮¹, 齋藤大樹³, 佐藤豊⁴ (1. 神戸大・院農学, 2. カンボジア・農業研究開発研究所, 3. 国際農研・熱帯島嶼研究拠点, 4. 国立遺伝学研究所)
- (2) 講演番号 419 「LAMP 法を用いたブドウ品種シャインマスカットの簡易迅速な識別法の開発および妥当性確認」 高島令王奈¹, 門田有希², 進藤彰子², 峯岸恭孝³, 谷口郁也⁴, 橋本優¹, 竹内朋幸⁵, 高崎一人⁵, 磯部祥子⁶ (1. 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門, 2. 岡山大学大学院環境生命自然科学研究科, 3. 株式会社ニッポンジーン, 4. 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門, 5. 株式会社ファスマック, 6. かずさ DNA 研究所)
- (3) 講演番号 P010 「植物三次元再構築における生成 AI の有効性の検証」 兒玉晋洋, James BURRIDGE, Pieter BLOK, 郭威 (東大・院農)

岩田が諸注意を述べた後, それぞれの課題の発表者がレジュメを用いて発表内容について自ら説明し, 質疑応答を行った。記者会見後, 講演番号 413 に関する記事が読売新聞 (3/13 オンライン版, 3/27 夕刊) に掲載された。

◇ 石原 (志方) 守一奨学金受賞報告

運営委員会で審議の結果, 以下の 4 名の優秀発表受賞者を令和 5 年度の石原 (志方) 守一奨学金受賞者と決定した。

【第 145 回大会】

講演番号 406 : 河内匠 (東京大・院・農学生命科学)

講演番号 109 : 塩谷直弘 (山形大・院・農)

【第 146 回大会】

講演番号 201 : 大山歩弥 (広島大・院・統合生命)

講演番号 413 : 芝日菜子 (福井県大・院・生物資源学)

◇ 第 147 回講演会日本育種学会優秀発表賞報告

2025 年日本育種学会春季大会 (第 147 回講演会) における日本育種学会優秀発表賞が下記の 9 演題に決定された。

講演番号 304 水稻ヒストリカルデータの解析による既知遺伝子効果の推定

☆千装公樹¹, 山本英司¹, 後藤明俊¹, 池ヶ谷智仁¹, 鈴木信裕¹, 川原善浩², 山崎将紀³, 杉本和彦¹, 堀清

純¹ (1. 農研機構・作物研究部門, 2. 農研機構・高度分析研究センター, 3. 新潟大学農学部)

講演番号 308 カンキツ果実の形態情報を用いたゲノム育種の可能性評価

☆廣永浩多¹, 清野拓視², 野中圭介³, 清水徳朗^{3,4}, 南川舞⁵ (1. 千葉大・園芸, 2. 千葉大院・園芸, 3. 農研機構・果樹茶業研究部門, 4. かずさ DNA 研究所, 5. 千葉大・国際高等研究基幹)

講演番号 408 茎葉部におけるデンブリン合成酵素遺伝子 *OsAGPL1* の機能欠損変異を有する「咲かないイネ」の解析

☆宮崎虹輔, 鈴木慎琴, 西出典子, 橋本舜平, 森田隆太郎, 青木直大, 井澤毅 (東大院・農学生命科学)

講演番号 510 接木を用いた *Vigna luteola* の耐塩性機構の解明および根の発現解析による耐塩性遺伝子候補の同定

☆壹岐友里恵¹, Fanmiao Wang², 伊藤広輔¹, 若竹崇雅³, 田野井慶太郎⁴, 内藤健² (1. 東大・院新領域, 2. 農研機構・遺伝資源研究センター, 3. 奈良先端大・先端科学技術, 4. 東大・院農学生命)

講演番号 P001 High-Resolution Melting によるゲノム編集個体の迅速スクリーニング

☆河内匠, 西出典子, 井澤毅 (東大院・農学生命科学)

講演番号 P008 シミュレーションによる混作のゲノミック予測

☆木下青¹, 高梨秀樹¹, 大森良弘¹, 高橋宏和², 市橋泰範³, 藤佐志郎⁴, 津田麻衣⁵, 石井孝佳^{6,7}, 郭威¹, 岩田洋佳¹ (1. 東京大・院農学生命科学, 2. 名大・院生命農学, 3. 理研・バイオリソース研究センター, 4. 理研・環境資源科学研究センター, 5. 東洋大・食環境科学部, 6. 鳥取大・乾燥地研究センター, 7. 鳥取大・国際乾燥地研究教育機構)

◇ 地域談話会だより

〈北海道地区〉

令和 6 年度日本育種学会・日本作物学会北海道談話会年次講演会および総会が 2024 年 12 月 7 日 (土) にオンラインで開催された。一般講演 27 演題から優秀発表賞 2 件および奨励賞 2 件として以下の課題が審査に基づいて選出された。加えて, ランチョンセミナーにおいて 2 件の高校生のオープン参加があった。

優秀発表賞

・イネ葉原基全細胞の三次元成長パターン

○田口みなみ¹・徳山芳樹²・Robert Kelly-Bellow³・Richard S. Smith³・貴島祐治²・小出陽平² (1. 北大農, 2. 北大院農, 3. Department of Computational and System Biology・JIC)

・タマネギ新畑における高機能性バイオ炭施用による増

収効果

出原慧¹・〇井田悠太¹・西田亮也²・須河秋久³・筒井一郎¹ (1. ホクレン, 2. (株) TOWING, 3. JA きたみらい)

奨励賞

・ホウレンソウ FT および CO ホモログ強制発現株における抽苔性の評価

〇廿日出真衣・石川梨紗・小野寺康之 (北大院農)

・栽植密度の違いが子実生産用エンバクの草型や収量に及ぼす影響

〇豊田聖太・秋本正博 (帯畜大)

一般講演 2024 年 12 月 7 日 (土) オンライン開催

101. 多数のテンサイ育成系統を供試した褐斑病抵抗性評価の試み 2

〇成廣翼・松平洋明・黒田洋輔 (北農研)

102. リシーケンス解析によるテンサイ日本育成系統の遺伝的多様性

〇廣木幸太郎¹・北崎一義¹・成廣翼²・松平洋明²・久保友彦¹・黒田洋輔² (1. 北大院農, 2. 北農研)

103. テンサイにおける新規稔性回復遺伝子の候補遺伝子

〇赤澤亨歩¹・柏倉淳¹・松平洋明²・北崎一義¹・久保友彦¹ (1. 北大院農, 2. 北農研)

104. ビート維持系統のクオリティについて

〇久保友彦¹・織田琴子¹・松平洋明²・成廣翼²・黒田洋輔²・北崎一義¹ (1. 北大院農, 2. 北農研)

105. コムギ赤さび病抵抗性遺伝子 Lr34 による「きたほなみ」での発病抑制程度

〇道満剛平¹・大西志全²・其田達也²・西村努¹ (1. 道総研中央農試, 2. 道総研北見農試)

106. イネ葉原基全細胞の三次元成長パターン

〇田口みなみ¹・徳山芳樹²・Robert Kelly-Bellow³・Richard S. Smith³・貴島祐治²・小出陽平² (1. 北大農, 2. 北大院農, 3. Department of Computational and System Biology・JIC)

107. 一年生野生イネの持つ多けつ性と分けつ数の密度反応性を北海道稲に導入した育種のプロセスとその検証
〇伊藤勇樹 (緑の進化研究室)

108. 北海道の水稲品種において初期生育時の茎葉重が耐倒伏性の指標となる可能性

〇丸田泰史 (道総研道南農試)

109. アジアイネとアフリカイネ種間で起きる雑種不稔遺伝子座 S2 のファインマッピング

〇Choi K・Zin Mar Myint・Koide Y (北大院農)

110. ホウレンソウ FT および CO ホモログ強制発現株における抽苔性の評価

〇廿日出真衣・石川梨紗・小野寺康之 (北大院農)

111. 金魚草トランスポゾン Tam3 の利己的性質を排除する機能因子の同定

〇三枝雅弥・三井茂友・吉田翼・王莎莎・貴島祐治 (北大院農)

112. 「男爵薯」の中心空洞発生率と気象の関連解析

〇石川圭大・品田博史 (道総研北見農試)

113. ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性を持つ海外遺伝資源後代のでん粉品質の特徴

〇和崎俊文¹・足利奈奈^{1,2}・品田博史¹・石川圭大¹ (1. 道総研北見農試, 2. 道総研十勝農試)

201. 普通ソバ半矮性系統における窒素追肥の時期と量が収量と粉のタンパク質含有率に及ぼす影響

〇笠島真也¹・秋吉柚音¹・吉田みらい¹・石黒浩二²・原尚資²・大塚しおり² (1. 東農大, 2. 北農研)

202. 子実充填に着目した北海道水稻の多収要因解析

〇伊東佳奈子¹・堀越瑞貴¹・太田裕亮¹・市川伸次²・中島大賢¹・柏木純一¹ (1. 北大院農, 2. 北大 FSC)

203. タマネギ新畑における高機能バイオ炭施用による増収効果

出原慧¹・〇井田悠太¹・西田亮也²・須河秋久³・筒井一郎¹ (1. ホクレン, 2. (株) TOWING, 3. JA きたみらい)

204. 異なる地域・品種における狭畦栽培が引倒し力および地上部乾物重量に及ぼす影響

〇今啓人¹・森生元太郎²・太田航輔²・義平大樹³・林拓¹ (1. 道総研畜試, 2. ホクレン帯広支所営農支援室, 3. 酪農大)

205. 栽植密度の違いが子実生産用エンバクの草型や収量に及ぼす影響

〇豊田聖太・秋本正博 (帯畜大)

206. ダイズに対する Twin row 栽培による増収効果に及ぼす開花期以降の時期別遮光処理の影響

〇黒瀬大地・櫻本颯太・佐々木壱・松井俊樹・飛谷淳一・林怜史・義平大樹 (酪農大)

207. 狭畦栽培がアズキの収量および収量構成要素に及ぼす影響

〇佐々木壱¹・佐々木楓花¹・黒瀬大地¹・松井俊樹¹・飛谷淳一¹・林怜史¹・秋本正博²・義平大樹¹ (1. 酪農大, 2. 帯畜大)

208. アズキの受光態勢における品種間差異と狭畦栽培による増収効果との関係

〇義平大樹¹・佐々木壱¹・佐々木楓花¹・黒瀬大地¹・松井俊樹¹・飛谷淳一¹・林怜史¹・秋本正博² (1. 酪農大, 2. 帯畜大)

209. 耐倒伏性関連形質に対する栽植密度が及ぼす影響～アズキとダイズの比較および各作物の品種間差異～

〇松井俊樹・黒瀬大地・佐々木壱・飛谷淳一・林怜史・義平大樹 (酪農大)

210. Elucidating the Relationship between Chlorophyll Degradation and Tocopherol Biosynthesis in Soybeans Through Shading

〇 Panapitiya PDDM・Nakashima T・Dwiyananti MS (Grad.



優秀発表賞の井田悠太氏



奨励賞の豊田聖太氏

Sch. Agr. Hokkaido Univ)

211. 着色ダイズ種皮における DMACA 染色およびフロログルシノール染色のパターン比較

○藤田 瑛¹・山口直矢²・千田峰生¹ (1. 弘前大農学生命科学, 2. 道総研中央農試)

212. ラッカセイの収穫時期が子実に与える影響

○大道雅之¹・上西孝明² (1. 大道技術士事務所, 2. 拓大道短大)

213. 十勝地域におけるラッカセイ栽培の実態と栽培法による比較

○田澤暁子¹・清水理沙²・村田暢明¹ (1. 道総研十勝農試, 2. 十勝農試技術普及室)

214. 菜豆品種の近縁係数と遺伝的距離からみた関係

○梶田路津子 (道総研中央農試)

ランチョンセミナー (高校生オープン参加)

・ダイズに対する Twin row 栽培および狭畦栽培の増収効果と、受光態勢の品種間差異との関係

○太田成¹・森川令¹・三島咲弥¹・虐師侑斗¹・小林柑奈¹・山内ひなき¹・松本奈緒子¹・飛谷淳一²・林怜史²・義平大樹² (1. 帯農高, 2. 酪農大)

・ホウ素の施用量がアズキの収量および収量構成要素に及ぼす影響

○長田笑佑¹・箭内悠人¹・菊地春翔¹・泉田悠翔¹・吉田隼輔¹・米田健¹・松本奈緒子¹・飛谷淳一²・林怜史²・北畠拓也³・義平大樹² (1. 帯農高, 2. 酪農大, 3. 道総研)

〈東北地区〉

以下の3つの研究集会が開催された。

1. 第45回岩手育種談話会の共催開催

2024年4月22日(月)に第45回岩手育種談話会が、岩手農林研究協議会 (AFR)、植物生命科学セミナーおよびJST さきがけとの共催により開催されました。開催の詳細は以下のとおりです。

日時：令和6年4月22日(月) 15:30～17:00

場所：岩手大学農学部6番講義室(盛岡市)

講演：

「菌の植物ホルモン様代謝物が規定する植物感染糸状菌の病原および共生戦略」

晝間敬氏(東京大学大学院総合文化研究科)

参加人数：28名

2. 第26回リンドウ研究会の開催

2024年11月1日(金)に第26回リンドウ研究会が、岩手育種談話会、岩手県園芸育種研究集まりんどう部会および岩手生物工学研究センターの共催で開催されました。2名の講師にご講演いただき、今後のリンドウの研究開発について意見交換を行いました。開催の詳細は以下のとおりです。

日時：令和6年11月1日(金) 15:00～17:00

場所：岩手大学農学部 総合教育研究棟(生命系)2階 ぽらんホール(盛岡市)

講演

1. 「リンドウの花が開く仕組み」

根本圭一郎氏(公益財団法人岩手生物工学研究センター 園芸資源研究部 主任研究員)

2. 「サボテンのようなリンドウ」

高橋俊明氏(株式会社 T&G バイオナーサリー 代表取締役社長)

参加人数：47名

3. 第19回東北育種研究集会

2024年11月30日(土)に第19回東北育種研究集会(運営委員長：笹沼恒男氏)が山形大学農学部(山形大学鶴岡キャンパス)で開催されました。大学、公設試験場、民間企業、行政機関と幅広い分野から計72名の

方々にご参加いただきました。

3部構成として集会を開催し、第1部では特別講演1として、中場勝氏（山形県庄内総合支庁）から『山形県庄内地域における水稲育種』～山形農総研水田農業研究所水稲育種60周年～』と題してご講演をいただくとともに、ポスター発表会場にお米の食味試験ブースを設置いただきました。第2部では研究成果のポスター発表を行いました。第3部では特別講演2として、中坪あゆみ氏（山形大学農学部）から「持続可能な地域循環型農業に向けて 庄内産小麦プロジェクト」と題してご講演をいただきました。

ポスター発表では28題の講演があり、非常に活発な質疑応答がありました。優秀ポスター賞へのエントリー22題のうち、桑原康介さん（P06、東北大学大学院農学研究科）、塩谷直弘さん（P09、岩手大学大学院連合農学研究科）の2題が優秀ポスター賞として選ばれ、表彰されました。

開催の詳細は以下のとおりです。

1. 日時：令和6年11月30日（土）13:30～17:40
2. 会場：山形大学農学部 山形大学鶴岡キャンパス 農学部3号館（鶴岡市）
3. プログラム
 - 1) 開会挨拶 笹沼恒男氏（山形大学農学部）
 - 2) 特別講演1
中場勝氏（山形県庄内総合支庁）
『山形県庄内地域における水稲育種』～山形農総研水田農業研究所水稲育種60周年～
 - 3) 研究成果ポスター発表
 - 4) 特別講演2
中坪あゆみ氏（山形大学農学部）
「持続可能な地域循環型農業に向けて 庄内産小麦プロジェクト」
 - 5) 閉会

ポスター発表の演題リストは以下のとおりです。（☆：優秀ポスター賞エントリー発表者 ○：発表者）

- P01 日本のネットメロン‘B2’の日持ち性には在来メロンから導入された染色体領域が関与していた
☆中嶋くるみ¹、山中麻友香¹、佐藤奈乃佳¹、嶋田玄太郎^{2,3}、石川隆二¹、西田英隆²、加藤鎌司²、田中克典¹（1. 弘前大・農生、2. 岡山大・院環境生命自然、3. ミュンヘン工大）
- P02 日本のネットメロンにおける全可溶性固形物含量に関わる候補遺伝子の絞り込み
☆山中麻友香¹、佐藤奈乃佳¹、嶋田玄太郎^{2,3}、石川隆二¹、西田英隆⁴、加藤鎌司⁴、田中克典¹（1. 弘前大・農生、2. ミュンヘン工大、3. 筑波大・生命環境系、4. 岡山大・院環境生命自然）
- P03 イネ胚盤培養細胞を用いた抗菌タンパク質リゾスタフィンの分泌生産の検討

☆矢原匠人、渡会岳、大田原有咲、下田蒼、米山裕、伊藤幸博（東北大・農）

P04 2023年新潟県産米と気象とこれからの対策

○山崎将紀^{1,2}、佐藤俊栄²（1. 新潟大学・院自然科学、2. 新潟大学・農附属フィールド科学教育研究センター）

P05 一過的発現によるイネリパーゼ遺伝子のぬか層特異的シス配列の探索—こめ油増産を目指した育種基盤整備—

浦川めぐみ、桑原康介、鳥山欽哉、○伊藤幸博（東北大・農）

P06 組織別トランスクリプトーム解析による、イネのぬか特異的な遺伝子発現を誘導する cis-element の探索
☆桑原康介、浦川めぐみ、伊藤幸博、鳥山欽哉（東北大・院・農）

P07 甘味が強いダダチャマメ系統「甘露」の開花と良食味に関わる QTL 領域の推定

☆高木悠太¹、塩谷直弘²、星野友紀^{1,2}（1. 山形大院・農、2. 岩手大院・連農）

P08 近赤外分光法による非破壊定量技術を適応させたダダチャマメの良食味 QTL の検出

☆安部遥希¹、塩谷直弘²、江頭宏昌¹、夏賀元康¹、星野友紀^{1,2}（1. 山形大・農・食料生命環境、2. 岩手大院・連農）

P09 開花とショ糖の QTL から見出されるダダチャマメの伝播経路

☆塩谷直弘¹、安部遥希²、小木曾映里³、星野友紀^{1,2}（1. 岩手大院・連農、2. 山形大・農・食料生命環境、3. 国立科学博物館・分子セ）

P10 水稲の深水栽培による分げつ形成の抑制はなぜ起こるのか、遺伝子発現解析の試み

○尾形慶太郎、内田有香、中村聡、鳥羽太陽（宮城大・食産業）

P11 *Brassica napus* 判別品種を利用した国内根こぶ病菌株の病原型判定

☆細矢彩音、畠山勝徳（岩手大・農）

P12 ダイズ第3染色体に座乗する茎疫病抵抗性遺伝子座内の組換え抑制打破の試み

☆大橋陸人、岡田萌子、深井英吾（新潟大院・自然科学）

P13 縦長性タマネギにおける出荷規格と加工歩留まり性との関係

☆奥聡史¹、日浦聡子¹、深津和也²、桑原亘平²、稲田雅史³、山蔦翼³、寺沢祐一²、塚崎光¹（1. 農研機構・東北研、2. カネコ種苗株式会社、3. 株式会社渡辺採種場）

P14 自然突然変異で出現した矮性短穂変異体の特性解析

Le Thang Phong¹、深井英吾²、Dinh Thi Lam³、○石川隆二³（1. アンザン大学気候変動研究所、2. 新潟大学農学部、3. 弘大農生）



特別講演1 講師 中場氏らによるお米の食味試験



特別講演2 中坪氏の講演



ポスター賞受賞者 桑原康介氏



ポスター賞受賞者 塩谷直弘氏 (写真右)

P15 高度胴割れ耐性系統に誘発した巨大胚変異体原因遺伝子の特定とその育種利用

☆熊倉真里, 小渡いさぎ, 石川隆二 (弘大・農生)

P16 QTL解析を用いた胴割れに関するゲノム内耐性領域の特定

☆小渡いさぎ, 石川隆二 (弘大・農生)

P17 基本形質調査に基づくベニバナ遺伝資源の特徴付け. 2

○細野浩平¹, 木村菓子², 鈴木花², 遠山圭介², 笹沼恒男^{1,2} (1. 山形大・院農, 2. 山形大・農)

P18 山形県大江町の伝統作物青苧の遺伝的解析及び地域貢献に果たす役割についての社会科学的調査

☆緒方留実¹, 齋藤恵太¹, 西田悠希², 村上弘子³, 笹沼恒男^{1,2} (1. 山形大・農, 2. 山形大・院農, 3. 青苧復活夢見隊)

P19 東北地方日本海側向けのコムギ品種育成の取り組み

☆佐々木実来¹, 緒方留実¹, 長屋帆南¹, 鎌田ひいな¹, 中丸観子², 伊藤裕之², 池永幸子², 青木秀之³, 寺沢洋平³, 松中仁³, 中坪あゆみ¹, 笹沼恒男¹ (1. 山形大・農, 2. 農研機構・東北農研セ, 3. 農研機構・北農研セ)

P20 洪水に対応する浮稲の遺伝的多様の解析

☆森山ののか¹, 作佐部里咲¹, 前田悠里¹, Le Thanh Phong², Bui Quang Duy², 石川隆二¹, Dinh Thi Lam¹ (1. 弘前大学・農学生命科学部, 2. 気候変動研究所・An Giang 大学, Vietnam)

P21 イネの環境ストレス耐性を高める側根分岐に対するオーキシンの効果

☆作佐部里咲¹, 森山ののか¹, 前田悠里¹, 石川隆二¹, Matthias Wissuwa², Dinh Thi Lam¹ (1. 弘前大学・農学生命科学部, 2. University of Bonn, Germany)

P22 イネの低肥料栽培に向けた野生イネ由来低リン耐性遺伝子選抜方法の開発とQTL解析

☆前田悠里¹, 作左部里咲¹, 森山ののか¹, Ishikawa Ryuji¹, Matthias Wissuwa², Dinh Thi Lam¹ (1. 弘大農生, 2. University of Bonn, Germany)

P23 キャベツの根こぶ病抵抗性マイナーQTLの遺伝解析

☆生形優太¹, 清水元樹², 畠山勝徳¹ (1. 岩手大学・農, 2. 岩手生工研)

P24 東北日本海側におけるコムギ栽培の可能性—有望系統を対象とした栽培体系の検討と製パン性評価2—

☆長屋帆南¹, 鎌田ひいな¹, 小林由奈¹, 佐々木実来¹,

緒方留実¹、中丸観子²、伊藤裕之²、池永幸子²、青木秀之³、寺沢洋平³、松中仁³、笹沼恒男¹、中坪あゆみ¹ (1. 山形大・農, 2. 農研機構・東北農研セ, 3. 農研機構・北農研セ)

P25 山形県における在来ダイズに関する調査

☆鈴木李茉, 中坪あゆみ (山形大学農学部)

P26 Amplicon Sequencing 法によるアブラナ科野菜 F₁ 品種における S ハプロタイプの頻度調査

☆加藤陸, Ji Jie, Zhu Xingyu, 山下雅大, 宮下脩平, 山本雅也, 北柴大泰 (東北大学大学院農学研究科)

P27 センテナカ類の形態における種内変異・地理的分化及び分類群間の違いの検証

○笹沼恒男^{1,2}、玉川加奈^{1,2}、齋藤乃亜¹、佐藤結紀¹、浅見昇汰¹、長船裕紀³、菅原翼³、岸本誠司^{3,4} (1. 山形大・農, 2. 山形大・院農, 3. 鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会, 4. 東北工大・ライフデザイン学部)

P28 山形県鶴岡市の3つの山村集落で利用される山菜の地域間比較

☆奈良悠作, 江頭宏昌 (山形大・院農)

＜北陸地区＞

I 北陸作物・育種談話会 第61回講演会・シンポジウム

2024年11月15日(金曜日)～16日(土), 新潟市で開催し, ポスター発表35課題(うち一般講演11課題)の発表が行われた. 発表課題は以下の通りである8アルファベット表記が一般講演課題).

シンポジウムは, 農研機構 長谷川利広氏による「IPPC第6次報告書の見る気候変動と食料生産への影響」の講演により開催した.

1. イネの短日条件において晩生化する遠伝子の F2 集団を用いた解析

上向井美佐¹・Rana Birendra Bahadur²・Bhattarai Mukunda³・杉田(小西)左江子⁴・村井正之⁵ (1) 新潟食料農業大学食料産業学科, 2) The Ohio State University, USA, 3) Nepal Agriculture Research Council, Nepal, 4) 香川大学農学部, 5) 高知大学名誉教授)

2. 福井県の水稲育種における出穂期のデザイン育種
小林麻子 (福井県農業試験場)

3. 「コシヒカリ」と日本水稲31品種の交雑集団における出穂期の QTL 解析

重松宏紀¹・川合聖美¹・阿部祐実¹・小幡征貴¹・丸山颯太¹・大軒知也¹・渡部碧¹・小野凌法²・山崎将紀¹ (1) 新潟大学大学院自然科学研究科, 2) 神戸大学大学院農学研究科)

4. 高温下で登熟した2023年産水稲種子の休眠性評価
村田和優 (富山県農林水産総合技術センター)

5. 酒造好適米新品種「信交酒555号(やまみずぎ)」の育成

佐藤実栞^{*1}・高松光生²・組井淳³・渡辺裕一⁴・奥出聡英³・青木政晴¹・小野佳枝¹ (1) 長野県農業試験場, 2) 元長野県農業試験場, 3) 長野県農業技術課, 4) 長野県佐久農業農村支援センター)

6. 酒造好適米新品種「信交酒557号(夢見錦)」の育成
上原泰^{*1}・佐藤実栞¹・高松光生²・細井淳³・渡辺裕一⁴・奥出聡美³・青木政晴¹・小野佳枝¹ (1) 長野県農業試験場, 2) 元長野県農業試験場, 3) 長野県農業技術課, 4) 長野県佐久農業農村支援センター)

7. 水稲栽培における衛星データを用いた可変施肥の生育収量の平準化効果
上原泰¹・岡部知恭² (1) 長野県農業試験場, 2) 北アルプス農業農村支援センター)

8. 多収性水稲品種の玄米タンパク質収量を高める施肥方法

平原勇樹¹・林賢太郎²・樋口裕樹³・阿部志門³・高橋肇³ (1) 新潟県農業総合研究所作物研究センター, 2) 新潟県南魚沼地域振興局農林振興部, 3) 亀田製菓(株)食品開発研究所)

9. 富山県に適した飼料用米専用早生品種の選定

北崎颯太・小島洋一郎 (富山県農林水産総合技術センター)

10. 米の品質が食味に及ぼす影響

小島洋一郎^{*1}・鍋島裕佳子² (1) 富山県農林水産総合技術センター農業研究所, 2) 食品研究所)

11. 新潟県における極端な高温登熟年でのコシヒカリの収穫適期の目安

佐藤光¹・今井康貴²・服部誠¹・古川勇一郎¹・佐藤徹¹ (1) 新潟県農研作物研究センター, 2) 新潟県長岡地域振興局農林振興部)

12. 長野県における水稲「つきあかり」の施肥量および栽植密度が収量に及ぼす影響

丸山翔太^{*}・土屋学・宮原薫・上原泰 (長野県農業試験場)

13. UAV・衛星リモートセンシングを利用した小規模分散型水田における水稲の収量推定

佐々木航・叶戎玲・渡邊修 (信州大学農学部)

14. リモートセンシングによる中山間地の水稲収量に関する推定技術の検討

HU JINYAO・渡邊修・叶戎玲 (信州大学総合理工学科)

15. ダイズの混植栽培による病虫害の軽減効果の評価及びドローンと機械学習を活用した病虫害被害の検出

関流星・小池美里・叶戎玲^{*} (信州大学農学部)

16. 水田雑草コナギ埋土種子の光発芽システムは圃場において4月から5月にかけて切り替わる

HUYNH THAI DUONG・湯浅舞有子・田副久仁子・吉岡俊人 (新潟食料農業大学)

17. 漏生イネに対する有効除草剤と乗用型除草機を併用した防除体系の検討

寺崎亮・小島洋一郎 (富山県農林水産総合技術センター)

18. 水稲有機栽培において稲わらを収穫直後の秋もしくは翌春にすき込んだ場合の雑草発生量や水稲生育・収量の違い
大峽広智・廣田早紀・谷内田学・富田寛也・前田征之（新潟県農業総合研究所）
19. 雑草イネ防除のための石灰窒素散布法の検討
服部誠（新潟県農業総合研究所作物研究センター）
20. FS 剤塗抹処理が水稲苗生育へ及ぼす影響の評価
佐藤篤史（富山県農林水産総合技術センター）
21. 水稲ペースト二段施肥技術の適用性検討
野村駿介・有手友嗣・田中澄恵（石川県農林総合研究センター）
22. 石川県におけるイネ初冬直播き栽培の播種早限
有手友嗣・野村駿介・山上友誠・田中澄恵（石川県農林総合研究センター）
23. ソバにおける発酵鶏ふんの化学肥料代善効果の検証
秋山柚紗^{*1)}・川上修²⁾（1）新潟農総研作物研究センター・2）現（株）ホーネンアグリ）
24. 鶏ふんを活用したオオムギの減化学肥料技術
山上友誠・田中澄恵（石川県農林総合研究センター）
25. 「はねうまもち」の収量及びβ-グルカン含有率向上に向けた追肥時期の検討と一括肥料の試作について
岩岡悠太郎^{*1)}・田野井真¹⁾・増田周太²⁾（1）福井県農業試験場、2）福井県福井米戦略課）
26. 富山県における大麦品種「はねうまもち」および小麦品種「夏黄金」の生育特性一麦類有望品種の概要一
高松寛朗^{*1)}・宮崎有弘²⁾・村岡裕一³⁾（1）富山県農林水産総合技術センター農業研究所・2）富山県農業総合研究開発センター・3）富山県研波農林振興センター）
27. 光合成産物に着目したミヤコグサ *her1* 変異体の窒素応答の解析
奥原七海・岡本暁（新潟大学大学院自然科学研究科）
28. 遮光によって個葉の光合成にもたらされる影響の探索
山本真吾¹⁾・神谷岳洋²⁾・岡本暁¹⁾（1）新潟大学大学院自然科学研究科・2）東京大学大学院農学生命科学研究科）
29. 大豆初作土壌と連作土壌の違いと大豆品種が生育および根粒着床に及ぼす影響
山口泰弘（福井県農業試験場）
30. 帰化アサガオ類が発生したダイズ圃場における雑草防除に有効なトリフルラリン乳剤の播種前土壌混和処理を加えた4タイプの防除体系
宮原薫^{*1)}・谷口岳志²⁾・矢ヶ崎和弘³⁾（1）長野県農業試験場、2）長野県松本農業農村支援センター、3）長野県野菜花き試験場）
31. ダイズ栽培ほ場における籾殻くん炭施用の影響
藤田与一^{*1)}・水野貴文²⁾・本間利光³⁾（1）新潟農総研作物研究センター、2）新潟県農林水産部、3）新潟農総研アグリ・フーズバイオ研究部）

32. ダイズ突然変異系統の形質の評価
倉澤咲也子・西村実・岡本暁（新潟大学大学院自然科学研究科）
33. 冠水ストレスを与えたダイズ突然変異系統の形質の評価
中西ことみ・西村実・岡本暁（新潟大学大学院自然科学研究科）
34. 大豆「里のほほえみ」の成熟期及び裂皮粒率と開花期後の気象の関係
佐藤徹・藤田与一（新潟県農業総合研究所作物研究センター）
35. もみ殻炭の高度利用が水田からの温室効果ガス放出に及ぼす影響
古川勇一郎・平原勇樹・秋山柚紗・大峽広智・服部誠・佐藤光・藤崎葉奈（新潟県農業総合研究所）

II 会報の発行

2025年3月31日、北陸作物・育種研究 第60号を刊行。

〈中部地区〉

第31回日本育種学会中部地区談話会が、2024年12月15日（土曜日）に信州大学伊那キャンパス（農学部）において開催された。話題提供1題および一般講演17題の発表が行われ、中部地区5県（愛知・岐阜・三重・静岡・長野）の大学・高専・研究機関の研究者・学生、計57名の参加があり、活発な質疑・意見交換がなされた。一般講演については、参加者全員の投票により3題の発表に対して優秀発表賞が授与され、互いの成果を称え合いつつ盛会の内に終了した。

発表課題は、以下の通りである。

話題提供

「信州の伝統野菜の保全と遺伝資源としての利用」
松島憲一（信州大学学術研究院農学系 教授）

一般講演

- P01. アマランサス (*Amaranthus hypochondriacus* L.) モチ性系統における起源および伝播の解明
☆Dolgorjav Tuvshin¹, 松島憲一², 根本和洋²（1. 信州大学総合理工、2. 信州大学学術研究院農学系）
- P02. ダイズの二次通気組織形成速度に関わるWOX遺伝子の同定と機能解析
☆後藤万里奈, 長谷川史果, 馬場唯菜, 縣歩美, 中園幹生, 高橋宏和（名古屋大学大学院生命農学研究科）
- P03. ソルガム F₁ 品種「風立」の稈長における雑種強勢の遺伝解析
☆伊里友希¹, 岡田聡史², 橋本舜平³, 中村（荒木）聡子², 篠原（大前）梢², 春日重光⁴, 佐塚隆志²（1. 名大院・生命農学、2. 名大・生物セ、3. 東大院・農学生命科学、4. 信大・学術研究院）



優秀発表賞受賞者の皆さん（左），および第31回中部地区談話会の参加者の皆さん（右）
左から、伊里友希さん（名古屋大学大学院）、田村佑理那さん（名城大学大学院）、小原涼太郎さん（信州大学大学院）

P04. *Oryza rufipogon*/ コシヒカリ CSSLs におけるリン酸欠乏に対する根の解剖学的応答の評価

☆陰山まほ¹，森下紘光²，高師知紀³，芦刈基行⁴，山内卓樹⁴（1. 名大・農学，2. 名大・院生命農学，3. 株式会社ステイグリーン，4. 名大・生物機能開発利用研究センター）

P05. イネ登熟期における物質生産能力に関する遺伝解析

☆笠原麻由¹，島川昂大²，西内俊策²，仲田麻奈³，榎原大悟³，土井一行²（1. 名大農，2. 名大院生命農学，3. 名大農学国際教育研究セ）

P06. 葯形質に着目したイネ耐冷性に関する遺伝解析

☆菊地由夏¹，島川昂大¹，笠原麻由²，Ni Ni Min Thu¹，西内俊策¹，土井一行¹（1. 名大院生命農学，2. 名大農）

P07. 登熟温度が普通ソバ（*Fagopyrum esculentum*）の種子貯蔵デンプン特性に及ぼす影響

☆木村勇也¹，森小晃樹^{1,3}，松島憲一²，根本和洋²（1. 信州大院総合理工，2. 信州大学学術研究院農学系，3. 山崎製パン株式会社）

P08. 長野県在来カブ品種‘稲核菜’における自家採種の現況と遺伝的多様性評価

☆小原涼太郎¹，松島憲一²，根本和洋²（1. 信州大院総合理工，2. 信州大学学術研究院農学系）

P09. トウモロコシの形質転換系の確立と *Zea* 属植物の酸素漏出バリア形成制御機構の解明

☆小島朋香¹，田中久美子¹，間野吉郎²，森仁志¹，縣歩美¹，高橋宏和¹，中園幹生¹（1. 名大院・生命農学研究科，2. 農研機構・畜産研究部門）

P10. Attempts to improve root system architecture through accumulation of natural and artificial mutations in rice

☆ Lipio, P-L. G.¹，D. Yihao¹，S. Kushida¹，K. Doi¹，Y. Inukai²（1. Grad. Sch. Bioagr. Sci., Nagoya U., 2. Int.Cent. Res. Educ. Agr., Nagoya U.）

P11. リン酸欠乏に応答した根の皮層細胞層数を制御する植物ホルモンの解析

☆森下紘光¹，角クルミ¹，杉田亮平²，鈴木孝征³，小嶋美紀子⁴，竹林裕美子⁴，榎原均^{1,4}，井澤毅⁵，米山香織⁶，山内卓樹⁷（1. 名大・院生命農学，2. 名大・アイソトープ総合センター，3. 中部大・院応用生物，4. 理研・CSRS，5. 東大・院農学生命科学，6. 埼玉大・研究機構，7. 名大・生物機能開発利用研究センター）

P12. *Zea nicaraguensis* 由来の恒常的通気組織および酸素漏出バリアの形成能を導入したトウモロコシにおける耐湿性評価

☆岡田孟久¹，大森史恵²，間野吉郎²，縣歩美¹，高橋宏和¹，中園幹生¹（1. 名大院・生命農学研究科，2. 農研機構・畜産研究部門）

P13. チャ不定胚における分化の初段階である緑色化は様々な乾燥処理により誘発される

☆清花圭，☆矢橋駿，瀬川大樹，古川一実（沼津高専物質工学科）

P14. LAI 推定によるイネ登熟期の群落動態の解析手法の検討

☆島川昂大¹，菊地由夏¹，笠原麻由²，西内俊策¹，杉浦大輔¹，土井一行¹（1. 名大院生命農学，2. 名大農）

P15. 多収水稻品種タカナリの根の通過細胞が水輸送効率に与える効果の解析

☆角クルミ¹，山中碩人²，染野大輝³，森下紘光¹，三並翔哉¹，石崎蒼太⁴，渡邊友実加¹，亀岡笑⁵，谷吉和貴⁶，安達俊輔⁷，野下浩司⁸，田中佑²，山内卓樹⁹（1. 名大・院生命農学，2. 岡山大・院環境生命自然科学，3. 九大・院システム生命，4. 岡山大・農学，5. 東北大・院農学，6. 京大・院農学，7. 東京農工大・院農学，8. 九大・理学院研究科，9. 名大・生物機能開発利用研究センター）

P16. 出穂後のイネ葉鞘のデンプン分解と葉身の枯れ上がりを低窒素環境下で制御する IR64 型遺伝領域の探索

☆田村佑理那¹，川瀬愛斗²，牟田口真代²，黒川裕介^{1,2}，平野達也^{1,2}（1. 名城大学大学院農学研究科，2. 名城大学農学部）

P17. 辛味ダイコンにおけるグルコシノレート高含有メ

カニズムの解明に向けた研究

☆吉永一輝¹, 松島憲一², 根本和洋² (1. 信州大院総合理工, 2. 信州大学学術研究院農学系)

〈中国地区〉

中国地域育種談話会報告

2024年12月14日(土)・15日(日), 牛窓研修センターカリヨンハウスにおいて, 第16回中国地域育種談話会が開催された(世話人: 西田英隆). 参加人数61名, 特別講演2題, 口頭発表5題, ポスター発表36題であった. 優秀発表賞は, 岡大晴(O01), 関口結佳(O02), 下谷祐貴(O03), 平田駿一郎(O04), 大熊眞歩(O05), 杉浦李果(P09)の6名に授与された. また, 第17回中国地域育種談話会は, 久野裕先生(岡山大学資源植物科学研究所)を世話人として開催されることになった.

【特別講演】

S01 改良版 MIG-seq 法によるムギ類の遺伝解析の加速化. 西村和紗(岡山大・院・環境生命自然)

S02 接ぎ木を用いたアブラナ科作物の早期開花誘導技術「GRAFT 法」の開発. 元木航(岡山大・院・環境生命自然)

【口頭発表】

O01 4倍体種間雑種イネ集団を用いた分離の歪みに関わる染色体領域の網羅的検出. ○岡大晴¹・古田智敬¹・柏原孝成¹・牟竈瑞¹・貴島祐治²・長岐清孝¹・山本敏央¹ (1. 岡山大・院・環境生命自然・植物研, 2. 北海道大・院・農)

O02 Elucidating the mechanism of Trifluoromethanesulfonamide (TFMSA) pollen sterility induction in plants. ○Yuka Sekiguchi¹, Kosei Terada², Gao Yan¹, Benjamin Ewa Ubi³, Takayoshi Ishii^{4,5} (1. United Grad. Sch. Agri. Sci., Tottori U., 2. Grad. Sch. Sus. Sci., Tottori U., 3. Bio., Ebonyi State. U., 4. ALRC, Tottori U., 5. IPDRE, Tottori U.)

O03 暗黒誘導性葉老化におけるエチレン合成に依存しないエチレンジグナル伝達系活性化. ○下谷祐貴・信澤岳・小塚俊明・草場信(広島大)

O04 TILLING 集団からの節水型耐乾性コムギ系統の選抜. ○平田駿一郎¹・山下昂太²・梅澤泰史²・賛田晃広³・辻本壽⁴・妻鹿良亮^{1,3} (1. 山口大・院創成科学, 2. 農工大・院BASE, 3. 山口大・農, 4. 鳥取大・乾燥地研)

O05 オオムギの4H染色体に座乗する新規出穂期関連QTLの絞り込みと原因遺伝子の探索. ○大熊眞歩・西村和紗・門田有希・加藤鎌司・西田英隆(岡山大・院環境生命自然)

【ポスター発表】

P01 Effect of combined heat-nitrogen deficiency on the performance of wheat multiple synthetic derivatives

population. Amir I. I. Emam^{1,2}, Nasrein M. Kamal^{2,3}, Yasir S. A. Gorafi^{2,4}, Izzat S. A. Tahir^{2,3}, Mohammed Y. Balla^{2,3}, Hisashi Tsujimoto⁵, Takayoshi Ishii^{3,5} (1. Uni. Grad. Sch. Agri. Sci., Tottori U., 2. ARC, Sudan, 3. IPDRE, Tottori U., 4. Grad. Sch. of Agri., Kyoto U., 5. ALRC, Tottori U.)

P02 Deciphering the genetic basis of bird feeding behavior in barley. ○Hongjing Zhu^{1,2}, Max Haupt³, Martin Mascher³, Shun Sakuma¹ (1. Faculty of Agriculture, Tottori U., 2. Graduate School of Horticulture, Chiba U., 3. Leibniz Institute of Plant Genetics and Crop Plant Research)

P03 Genetic diversity and structure of Asian cowpea (*Vigna unguiculata* (L.) Walp.) germplasm. ○Ofem Ngozi P.¹, Nasrein Mohamed K.^{2,3}, Sofie Pearson⁴, Tracey Shatte⁵, David Jordan⁴, Emma Mace⁴, and Takayoshi Ishii^{2,6} (1. United Grad. Sch. Of Agri. Sci., Tottori U., 2. IPDRE, Tottori U., 3. ARC, Sudan, 4. QAAFI, Uni. of Queensland, 5. DAF, Australia, 6. ALRC, Tottori U.)

P04 Development of an in-planta particle bombardment method for pearl millet transformation. ○Arikpo, G.¹, Ishii, T.^{2,3} (1. Uni. Grad. Sch. Agri. Sci., Tottori U., 2. IPDRE, Tottori U., 3. ALRC, Tottori U.)

P05 Maizewheat cybrids developed through *in vitro* fertilization system contain hybrid mitochondria between wheat and maize: a phenotypic evaluation study. Ikpa-agodo Kingsley Ikenna¹, Rika Sugiura¹, Nonoka Onda², Takashi Okamoto², Tety Maryenti^{2,3}, and Takayoshi Ishii^{4,5} (1. Grad. Sch. of Sus. Sci., Tottori U., 2. Dep. of Bio. Sci., Tokyo Met. U., 3. Dep. of Bio., Fac. of Math. and Natural Sci., U. Indonesia, 4. ALRC, Tottori U., 5. IPDRE, Tottori U.)

P06 *Thinopyrum elongatum* 由来 E ゲノム染色体がもたらす種子関連形質と登熟期間中の高温ストレス耐性. ○小針大輔¹・西田薫平²・田中裕之² (1. 鳥取大院・持続性社会創生科学, 2. 鳥取大・農)

P07 スピードブリーディング法とトリフルオロメタンスルホンアミド (TFMSA) による雄性不稔技術を用いたチカラシバ属種間雑種作出. ○寺田晃盛¹・佐久間俊²・Nasrein Mohamed Kamal^{3,4}・関口結佳⁵・石井孝佳^{4,6} (1. 鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科, 2. 鳥取大学農学部, 3. スーダン農業研究機構, 4. 鳥取大学国際乾燥地教育機構, 5. 鳥取大学大学院連合農学研究科, 6. 鳥取大学乾燥地研究センター)

P08 Elucidating the mechanism of symbiotic relationship between *Triticum aestivum* L. and fungus *Epichloë*. M Abdullah¹, S Kato¹, H Tsujimoto², T Ishii^{2,3} (1. Grad. Sch. of Sus. Sci., Tottori U., 2. ALRC, Tottori U., 3. IPDRE, Tottori U.)

P09 イネとコムギの雑種細胞質が表現型に与える影響の特定. ○杉浦李果¹・樽谷英賢¹・Nasrein Mohamed Kamal^{2,3}・Tety Maryenti^{4,5}・岡本龍史⁴・石井孝佳^{2,6} (1. 鳥取大・院持続性社会創生科学, 2. 鳥取大・乾燥地研

究教育機構, 3. スーダン農業研究機構・バイオテクノロジー・バイオセーフティー研究センター, 4. 東京都立大・院理学, 5. インドネシア大・数学自然科学, 6. 鳥取大・乾燥地研究センター)

P10 チカラシバ属の染色体の多様性: 遠縁交雑における染色体脱落と動原体の関係. ○村重佑樹¹・石井孝佳^{2,3} (1. 鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科, 2. 鳥取大学国際乾燥地教育機構, 3. 鳥取大学乾燥地研究センター)

P11 ヒトツブコムギの小穂あたり粒数は発芽に影響するのか? ○小磯千裕・中村木葉里・佐久間俊 (鳥取大学農学部)

P12 コムギ連植物に対するパンコムギ *Kr1* 遺伝子の交雑抑制効果. ○龍紋菜・松本青空・三科興平・佐久間俊 (鳥取大学農学部)

P13 砂質圃場におけるオオムギ野生種と栽培種の農業形質比較. ○山本晟嗣¹・藤田広樹²・岩崎崇¹・田中裕之¹・佐久間俊¹ (1. 鳥取大学農学部, 2. サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社)

P14 シロイヌナズナにおける植物ホルモンを介した花卉老化制御機構の解析. ○曾根健太郎・信澤岳・草場信 (広島大)

P15 CRISPR-Cas9 によるプロモーターゲノム編集を用いた新規 *cyp78a5* 変異体の作成. ○津田宏生・松嶋直哉・信澤岳・草場信 (広島大)

P16 キクタニギク *strawberry flowering 1* 変異体の原因遺伝子の探索および機能解析. ○青木孝司郎¹・夏目弘樹¹・西村和紗²・谷口研至¹・草場信¹ (1. 広島大統合生命, 2. 岡山大学環境生命自然)

P17 GRAS-Di を用いたアワとエノコログサ間の栽培化関連形質の QTL 解析. 吉木陸堅¹・渡邊いぶき¹・中原貴臣²・中村千里³・西村和紗²・門田有希²・○福永健二¹ (1. 県立広島大・生物資源, 2. 岡山大学環境生命科学, 3. 岡山大学農)

P18 ユニークなタンパク質切断活性をもつ膜貫通型プロテアーゼ Rhomboid の機能解明に向けた解析. ○佐々木ひかる・金岡雅浩 (県立広島大学大学院)

P19 ウキクサ植物 *Wolffiella hyalina* における花成誘導メカニズムの解析. ○牧紗也華¹・磯田珠奈子¹・小山時隆²・金岡雅浩¹ (1. 県立広島大学, 2. 京都大学)

P20 パンコムギ RIL 集団を利用した節水型耐乾性に寄与する QTL の探索. ○日名弘貴¹・石井孝佳²・西村和紗³・松岡由浩⁴・辻本壽²・妻鹿良亮¹ (1. 山口大・院創成科学, 2. 鳥取大・乾燥地研, 3. 岡山大学環境生命, 4. 神戸大・院農)

P21 高品質パンコムギ系統開発に向けた香気成分分析法の確立. ○伏見咲紀・妻鹿良亮 (山口大学農)

P22 サツマイモ主要品種を用いた収量に関する GxE 解析および光合成活性の調査. ○泉谷真¹・田口和憲²・石黒浩二³・田中佑¹・西中未央²・西村和紗¹・西田英

隆¹・加藤鎌司¹・門田有希¹ (1. 岡山大学環境生命自然, 2. 農研機構・中農研, 3. 農研機構・北農研)

P23 Gene expression and alternative splicing variation in tetraploid hybrid rice from Asian and African cultivars. ○Hongrui Mu¹, Tomoyuki Furuta¹, Nagaki Kiyotaka¹, Yuji Kishima², Hiroshi Kato³, Yuichi Koshiishi⁴, Toshio Yamamoto¹ (1. IPSR, Grad. Sch. Environ. Life Nat. Sci., Okayama Univ., 2. Grad. Sch. Agr., Hokkaido Univ., 3. Tokyo Univ. of Agr., 4. IIZC, Hokkaido Univ.)

P24 酸性またはアルカリ性ストレス条件下で栽培したオオムギの農業形質に関する QTL 解析. ○白土寛子¹・最相大輔^{1,2}・久野裕^{1,2} (1. 岡山大学環境生命自然, 2. 岡山大学植物研)

P25 *PCL1* が機能欠損したパンコムギ大規模分離集団における出穂期に関するゲノミック予測. ☆田村朋子・西村和紗・梅井明日香・門田有希・加藤鎌司・西田英隆 (岡山大学環境生命自然)

P26 オオムギ 5H 染色体に座乗する早生効果の小さい新規出穂期関連 QTL の遺伝解析. ○梅井明日香¹・大熊眞歩¹・阿辻佳人²・西村和紗¹・門田有希¹・加藤鎌司¹・西田英隆¹ (1. 岡山大学環境生命自然, 2. 岡山大学環境生命)

P27 オオムギ出穂期関連遺伝子が節間伸長および幼穂形成に及ぼす効果. ○中田知里¹・中谷勇¹・岡拓海²・西村和紗¹・門田有希¹・加藤鎌司¹・西田英隆¹ (1. 岡山大学環境生命自然, 2. 岡山大学農)

P28 サツマイモ塊根へのカロテノイド蓄積に関わる遺伝子座の同定. ○堀田望未¹・岡田吉弘²・神崎浩¹・栗原未結³・西村和紗¹・西田英隆¹・加藤鎌司¹・門田有希¹ (1. 岡山大学環境生命自然, 2. 農研機構・九冲研, 3. 岡山大学環境生命)

P29 亜熱帯環境で生じるオオムギ不稔発生の原因解明. ○岡田柊一¹・岡田吉弘²・最相大輔^{1,3} (1. 岡山大学環境生命自然, 2. 農研機構九冲研, 3. 岡山大学植物研)

P30 遺伝子発現情報を利用した二粒系コムギが保有する雑種生育不全遺伝子のファインマッピング. ☆中西爽太郎¹・西村和紗¹・大熊眞歩¹・中崎鉄也^{2,3}・加藤鎌司¹・門田有希¹・西田英隆¹ (1. 岡山大学環境生命自然科学, 2. 京都大学農学, 3. 京都大学成長戦略本部)

P31 Nanopore ロングリードのアンプリコンシーケンスによるサツマイモ澱粉に低温糊化性をもたらす *SSI7* 遺伝子の新規変異型アレルの探索. ○中原貴臣¹・田中勝²・泉谷真¹・牛島幸一郎¹・西村和紗¹・西田英隆¹・加藤鎌司¹・門田有希¹ (1. 岡山大学環境生命自然, 2. 農研機構・九冲研)

P32 次世代シーケンスを活用したオオムギ出穂期突然変異遺伝子のマッピング. ○武田尚馬・大熊眞歩・Ajmal Mandozai・西村和紗・門田有希・牛島幸一郎・加藤鎌司・西田英隆 (岡山大学環境生命自然)



優秀発表賞授与式の様子。左から西田英隆氏，平田駿一郎氏，杉浦李果氏，大熊眞歩氏，関口結佳氏，岡大晴氏，下谷祐貴氏。

P33 3Dモデリングを用いたオオムギ匍匐性QTLの遺伝的定量解析。☆吉川大智¹・西村和紗²・門田有希²・加藤鎌司²・西田英隆² (1. 岡山大・農, 2. 岡山大・院環境生命自然)

P34 複数環境データを用いた野生エンマコギ系統KU-195が保有する早生遺伝子の遺伝解析。☆高野仁菜¹・西村和紗²・張芸瑄³・大熊眞歩²・中崎鉄也^{3,4}・加藤鎌司²・門田有希²・西田英隆² (1. 岡山大・農, 2. 岡山大・院環境生命自然科学, 3. 京都大・院農学, 4. 京都大・成長戦略本部)

P35 Fine mapping を利用したサツマイモネコブセンチュウレースSP1抵抗性遺伝子の絞り込み。○田中沙英¹・栗原未結²・田淵宏朗³・西村和紗⁴・西田英隆⁴・加藤鎌司⁴・門田有希⁴ (1. 岡山大・農, 2. 岡山大・院環境生命, 3. 農研機構・九沖研, 4. 岡山大・院環境生命自然)

P36 CoSSA 解析を利用したサツマイモネコブセンチュウレースSP6-2への抵抗性を制御する遺伝子座の同定とその効果の検証。○土屋駿太¹・栗原未結²・田淵宏朗³・西村和紗⁴・西田英隆⁴・加藤鎌司⁴・門田有希⁴ (1. 岡山大・農, 2. 岡山大・院環境生命, 3. 農研機構・九沖研, 4. 岡山大・院環境生命自然)

〈九州・沖縄地区〉

宮崎大学農学部木花キャンパス創立330記念交流会館（宮崎県宮崎市）にて令和6年12月9日（月）に第19回九州育種談話会を開催した（図1）。実行委員長は國武久登先生，平野智也先生（両宮崎大学）であった。招待講演として3題，一般講演ポスター発表として28題の発表があり，活発な議論が行われました。オンライン86名の参加を賜りました。優秀発表賞，最優秀発表賞を一名ずつ投票にて学生および若手研究者より選定しました。講演会後は懇親会を行い，親睦を深めました。

〈最優秀発表賞〉

P09 ☆原希帆¹，窪田隆一¹，安井秀²，山形悦透² (1. 九州大学大学院生物資源環境科学府, 2. 九州大学大学院農学研究院) *Oryza rufipogon* と *O. meridionalis* の交雑



図1. 招待講演の様子。木花キャンパス創立330記念交流会館にて行われた。



図2. 優秀発表賞受賞者。左から瀬戸口優乃氏，原希帆氏，平田真里菜氏が受賞した。

後代において見出されたF₁花粉不稔遺伝子S2I座におけるインプリンティング

〈優秀発表賞〉

P06 ☆瀬戸口優乃¹，福留春香²，井上遼太郎³，廣中佑真²，山村実央²，竹下稔²，大谷基泰⁴，平野智也²，國武久登² (1. 宮崎大・院農工, 2. 宮崎大・農, 3. 宮崎大・院農, 4. 石川県大・生資工研) サツマイモ茎部のポリフェノール含量は基腐病の発病度に影響する

P13 ☆平田真里菜¹, 黄琬媚², 榎藤崇裕³ (1. 宮崎大学大学院, 2. 宮崎大学地域資源創成学部, 3. 宮崎大学フロンティア) コウシュンシバにおけるクロロフィル分解遺伝子 (SGR) のゲノム編集とその特性評価

〈招待講演〉

1. 武田和宣 (宮崎県総合農業試験場) 「薬培養技術が切り拓く土壌病害虫抵抗性ピーマン台木品種育成」
2. 中村広 (宮崎県総合農業試験場) 「宮崎県におけるデルフィニウムの品種育成の取り組み」
3. 甲斐由美 (九州沖縄農業研究センター) 「サツマイモの品種改良について」

〈一般講演 (口頭発表)〉

P01 ○久保貴彦¹, 山形悦透¹, 松坂弘明¹, 佐藤豊², 熊丸敏博¹ (1. 九大農, 2. 遺伝研) イネ変異体オンラインスクリーニングシステムの構築と公開

P02 ☆橋本浩起, 山口采佳, 渡邊麗奈, 小森山翔太, 渡辺涼太, 廣中彬人, 石原祐真, 長島祐樹, 陳蘭庄 (南九州大学環境園芸学部蔬菜園芸学研究室) 宮崎発のメロン育種に向けてのアプローチ〜有用遺伝資源を用いた新品種候補群の育成〜

P03 瀬戸口優乃¹, 大村諒², 奈良迫祐介^{1,3}, 大谷基泰⁴, 平野智也⁵, ○國武久登⁵ (1. 宮崎大・院農工, 2. 宮崎大・院農, 3. (株) くしまアオイファーム, 4. 石川県大・生資工研, 5. 宮崎大・農) サツマイモ ‘べにはるか’ の十二倍体の育成とその特徴

P04 ○菅原まなみ¹, 榎藤崇裕² (1. 宮崎大学大学院, 2. 宮崎大学フロンティア) タイヌビエの効率的な組織培養系の確率と形質転換

P05 ☆広中利貴¹, Hnin Wah Thein¹, 山形悦透², 安井秀² (1. 九州大学大学院生物資源環境科学府, 2. 九州大学大学院農学研究院) *Oryza glaberrima* による戻し交雑集団を用いたツマグロヨコバイ抵抗性に関する QTL 解析

P06 ☆瀬戸口優乃¹, 福留春香², 井上遼太郎³, 廣中佑真², 山村実央², 竹下稔², 大谷基泰⁴, 平野智也², 國武久登² (1. 宮崎大・院農工, 2. 宮崎大・農, 3. 宮崎大・院農, 4. 石川県大・生資工研) サツマイモ茎部のポリフェノール含量は基腐病の発病度に影響する

P07 ☆藤井晶大¹, 平尾愛喜¹, 安井秀², 山形悦透² (1. 九州大学大学院生物資源環境科学府, 2. 九州大学大学院農学研究院) アフリカ栽培イネの遺伝的改良に向けた出穂の遺伝的基盤の解明と多分げつ系統の選抜

P08 赤嶺萌衣¹, 山形悦透², ○安井秀² (1. 九州大学農学部, 2. 九州大学大学院農学研究院) ミャンマー産インド型イネ多様性パネルを用いたトビイロウンカ抵抗性系統の選抜

P09 ☆原希帆¹, 窪田隆一¹, 安井秀², 山形悦透² (1. 九州大学大学院生物資源環境科学府, 2. 九州大学大学

院農学研究院) *Oryza rufipogon* と *O. meridionalis* の交雑後代において見出された F₁ 花粉不稔遺伝子 S2I 座におけるインプリンティング

P10 ○田浦悟¹, Shameel Shah², 村山大航², 恒吉宏昭², 江崎亮太², 中山雄貴², 阿部洋介², 加藤神成流², 武田倫², 渡邊匠弥², 一谷勝之² (1. 鹿児島大学遺伝子実験施設, 2. 鹿児島大学農学部) インド型品種 IR24 を遺伝的背景に持つコシヒカリ染色体部分置換系統の日本産イネ白葉枯病に対する病徴反応とその特徴

P11 ☆ Numnueng Wattanakasemsakun¹, Makiko Shii¹, Tomoko Abe², Hisato Kunitake¹, Tomonari Hirano^{1,2} (1. Fac. Agr., University of Miyazaki, 2. RIKEN Nishina Center) *In vitro* culture of embryo sacs derived from fertilization of male gametes irradiated with heavy-ion beams

P12 ☆田中智也, 渡邊啓史 (佐賀大学大学院農学研究院) ダイズ種子中のイソフラボン含量を制御する *qMge-15* 遺伝子のマッピング

P13 ☆平田真里菜¹, 黄琬媚², 榎藤崇裕³ (1. 宮崎大学大学院, 2. 宮崎大学地域資源創成学部, 3. 宮崎大学フロンティア) コウシュンシバにおけるクロロフィル分解遺伝子 (SGR) のゲノム編集とその特性評価

P14 ☆船越さゆり¹, 加藤木高広², 星良和^{1,2,3} (1. 東海大学大学院・農学研究科, 2. 東海大学大学院・生物科学研究科, 3. 東海大学・農学部) 異なるゲノム組成をもつトウカイコモウセンゴケとその両親種の光環境に対する表現型可塑性の研究

P15 ☆赤城正崇¹, 増田優^{1,2}, 松田靖^{1,2} (1. 東海大学大学院農学研究科, 2. 東海大学農学部) ISSR 法を用いたヤーコン品種・系統における遺伝的多様性評価の試み

P16 ☆ Pongpiyapaiboon S.¹, Hashiguchi M.², Akashi R.³, Tanaka H.⁴ (1. Interdisciplinary Graduate School of Agriculture and Engineering, University of Miyazaki, 2. Faculty of Regional Innovation, University of Miyazaki, 3. University of Miyazaki, 4. Faculty of Agriculture, University of Miyazaki) Application of digital phenotyping system in soybean breeding: A case study of Miyadaizu, a local variety from Miyazaki, carrying indeterminate stem growth gene

P17 ☆井上結実¹, 稲田那菜¹, 山形悦透², 安井秀² (1. 九州大学大学院生物資源環境科学府, 2. 九州大学大学院農学研究院) バングラデシュ産イネの耐塩性の遺伝解析に向けた土耕・水耕栽培による系統選抜

P18 ☆天野晴仁¹, 河田倫典¹, 梅原彩¹, 安井秀², 山形悦透² (1. 九州大学大学院生物資源環境科学府, 2. 九州大学大学院農学研究院) *Oryza sativa* と *O. glumaepatula* の交雑において見出された F₁ 花粉不稔遺伝子座 qSG11 が引き起こす雌雄配偶体型不稔を支配するゲノム領域

P19 ☆寺崎景吾¹, 加藤木高広², 船越さゆり¹, 星良和^{1,2,3} (1. 東海大学大学院・農学研究科, 2. 東海大学大学院・生物科学研究科, 3. 東海大学・農学部) モウ

センゴケ属 3 種の人為雑種とその倍加系統のゲノムサイ
ズおよび細胞遺伝学的比較研究

P20 ☆市川翔登¹, 鉄村琢哉², 本勝千歳² (1. 宮崎大
学大学院農学研究科, 2. 宮崎大学農学部) カンキツ属
植物自家不和合性に関する新規 *S-RNase* の遺伝子構造と
カンキツ品種の *S-RNase* ジェノタイプピング

P21 ○谷口恭平, 杉田亘 (南九州大学環境園芸学部)
Agave garciae-mendozae における大量増殖法の検討

P22 ☆植村亮介¹, Vuong Quoc Nhat¹, 阿部知子², 國
武久登³, 平野智也^{2,3} (1. 宮崎大・院・農, 2. 理研・
仁科センター, 3. 宮崎大・農) 花器官サイズ調節遺伝
子による花卉形態制御

P23 ☆山口耕司¹, 朝倉尚也¹, 田崎愛佳², 松田靖^{1,2},
増田優^{1,2} (1. 東海大学大学院農学研究科, 2. 東海大
学農学部) ウラルカンゾウにおける耐暑性メカニズムの
解析を目指す培養細胞実験系の基礎研究

P24 ☆高橋龍成¹, 加藤伸成流¹, 前田幸暉浩¹, 柴田
雪花¹, 瀧山祐樹², 田浦悟³, 一谷勝之⁴ (1. 鹿児島大
学農林水産学研究科, 2. 鹿児島県農業開発総合セン
ター徳之島支場, 3. 鹿児島大学遺伝子実験施設, 4. 鹿
児島大学農学部) イネ白葉枯病新規抵抗性系統の抵抗性
および形質の複数年評価

P25 ☆小城太紀¹, 坂本龍弥¹, 東ミユ², 仲村洋輔³,
田浦悟⁴, 久保山勉⁵, 一谷勝之² (1. 鹿児島大学大
学院農林水産学研究科, 2. 鹿児島大学農学部, 3. 茨城大
学大学院農学研究科, 4. 鹿児島大学遺伝子実験施設,
5. 茨城大学農学部) イネにおける雑種強勢を示す 2 品
種間の双方向の BC₁F₁ 世代における雑種不稔・収量関
連形質の遺伝様式

P26 ☆坂本龍弥¹, 小城太紀¹, 高橋龍成¹, 志水勝好²,
石川隆二³, 宇田津徹朗⁴, 一谷勝之² (1. 鹿児島大
学大学院農林水産学研究科, 2. 鹿児島大学農学部, 3. 弘
前大学農学生命科学部, 4. 宮崎大学農学部) プラント
オパール分析による野生イネの生産量推定のための日長
処理可能な水田作り—古代の再現?—新たに作る水田と
野生イネ栽培—

P27 ☆前田幸暉浩¹, 高橋龍成¹, 一谷勝之² (1. 鹿児
島大学大学院農林水産学研究科, 2. 鹿児島大学農学部)
バケツイネ栽培における定植時期の違いが収量性に及ぼ
す影響

P28 今西耕平¹, 萬寿公貴¹, 原田久也², 明石良³, ○橋
口正嗣^{3,4} (1. 宮崎大学大学院農学研究科, 2. 大阪大
学大学院工学研究科, 3. 宮崎大学農学部, 4. 宮崎大学地
域資源創成学部) 南九州における晩期栽培に適したダイ
ズ品種の開発

日本育種学会会員異動 (2024.10.21~2025.4.20)

◇普通会員入会: 石川圭大, 伊藤秀臣, 伊藤勇樹 (北海
道), 高砂ほのか, 野村知宏 (岩手県), 山澤清 (山形

県), 中野月音, 藤原陸也, 高田昌汰, 堤ゆたか, 高畠
令王奈 (茨城県), 佐々木晋也, 北村智 (群馬県), 中村
善紀 (埼玉県), 神田恭和 (千葉県), 梅基直行 (神奈川
県), 渡邊知輝 (静岡県), 服部悦子 (愛知県), 白上典
彦, 松下修司 (広島県), 浅海英記 (愛媛県), BEGUM
KOHINOOR (佐賀県), 森欣順 (熊本県), 田中義弘 (鹿
児島県)

◇学生会員入会: 更谷有真, MAQBOOL KONAIN
ZAHRA, 江口夏帆, 河又百花, 阿部航太郎, 黄元敏,
田口みなみ, HOQUE MD IMDADUL, ZAHIDAH QONITA
AULIA, 氏家大智, BARBARUAH BAIBHAV RAJ,
AIRLANGGA RAHMADANI PRAMANINDITA (北海道),
山口大成 (岩手県), 陳均育, 鈴木拓実, 横澤俊平, 加
藤陸, 矢原匠人 (宮城県), 千葉海大 (秋田県), 安部
遙希, 佐々木実来 (山形県), ZAE LANI AHMAD, 村上
喜一, 中山好乃 (茨城県), 富岡芳佳, 那須野愛梨, 小
田島慶, 高瀬暉大, 原口果子 (栃木県), 廣永浩多 (千
葉県), 清水碧, 杉本陽哉, ANEE TAUFIKA ISLAM,
土屋栞樹, 梶野拓磨, 岡部黎, 満壽利毅 (東京都),
MUKAMUHIRWA FLORIDE (新潟県), 中川果穂 (長
野県), 柴田芽依 (静岡県), 伊藤ひなた, 藁科愛実,
小久保裕貴, 岩間考紀 (愛知県), 神山匠己, 諏訪奈央
人 (滋賀県), 叶柯夫, 小林慎太郎, 林航大 (京都府),
加古凜花 (大阪府), 上田芳樹, 片岡仁史 (兵庫県),
中西爽太郎, 田中沙英, 土屋駿太 (岡山県), 藤井晶
大, 広中利貴, 鬼木万由 (福岡県), ELLEWALA
KANKANAMGE ERANDI CHINTHANI NAYANA, 小城
太紀, 坂本龍弥 (鹿児島県), 小林拓樹, 大城和輝 (沖
縄県)

住所変更等

◇名誉会員: 奥本裕 (京都府)

◇普通会員: 中村春貴 (北海道), 植松千代美 (岩手県),
小林伸哉, 川口健太郎, 三ッ橋昇平, 松尾宏樹, 島田直
人 (茨城県), 原田久也 (群馬県), 高山敏之 (埼玉県),
長嶺愛 (千葉県), 磯部祥子, 氷見英子, 尾関未帆, 師
田郷太, 千装公樹 (東京都), 荻野暁子 (静岡県), 大山
暁男 (三重県), 土岐精一 (滋賀県), 佐藤和広 (大阪
府), 富田因則 (兵庫県), 伊東栄作 (島根県), 山森晃
一 (岡山県), 波部一平 (香川県), 平川英樹 (福岡県),
三嶋賢太郎 (熊本県)

◇学生会員: 氏家大智 (北海道), 櫻井建吾, 中嶋梨花
(東京都), 辻村雄紀 (兵庫県)

◇外国会員: MOE SANDAR (ミャンマー)

逝去

奥崎文子 (東京都)
慎んでご冥福をお祈りいたします。